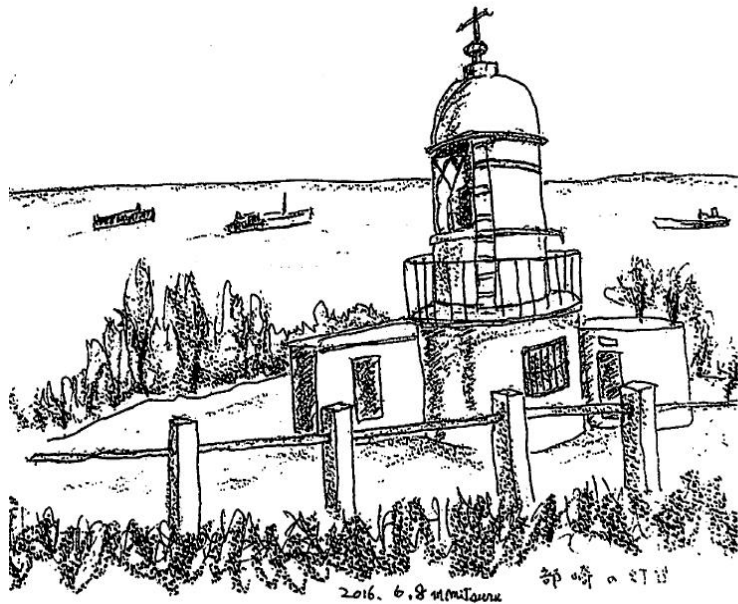


週報2022年8月28日



2022年教会標語聖句

起きよ。光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

イザヤ書60章1節

シオン教会信仰指標～人生が変わる！御言葉の光に照らされて～

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年8月28日

ピアノ：赤松姉 オルガン：勝子師

司会：石田兄 献身の祈り：松本兄 メッセージ：山崎師

開会の祈り		司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和	
賛美	新聖歌 21「輝く日を仰ぐとき」	
祈 禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*	
献身の祈り		松本 兄
賛美	新聖歌 268「御国の心地す」	
賛美	コーラス 23「涙と共に」	
	お証しの時	
聖書朗読	マタイの福音書 6章 25～34 節	
説 教	「野のゆり」	山崎 師
応答の祈り		
頌 栄	「主の祈り」	
祈 禱		山崎 師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

マタイの福音書6章25～34節

「野のゆり」

①野のゆりについて

今日の箇所ではイエス様は弟子達に対して「野のゆりがどのようにして育つのかよく考えなさい(わきまえなさい)」と言っています(山上の垂訓)。この箇所、新共同訳、新改訳2017では“野の花”と訳されていますが、新改訳第三版では“野のゆり”と訳されています。私は今回、野のユリを強調し、この説教題を付けさせていただきました。

雅歌2:1「私はシャロンのサフラン、谷のゆりの花」。讚美歌などでおなじみの箇所ですが、イスラエルの野の花には隠されたメッセージがあります。それは砂漠が多く、水が貴重なイスラエルでは、何によってこの花が咲いているのか?ここに大切なメッセージがあるのです。答えは豊かな水源です。例え周りは岩肌、砂漠でも泉の在る所に花が咲きます。実はこれは大切な聖書のメッセージです。

イエス様は先に空の鳥の話をしています。今日の“教え”で大切なポイントは“神は命を養う方”です。だから神様は私達に“心配するな”と言っているのです。私達の命は神によって養われ、そして置かれたところで咲くのです。

②証：覆うは神の恵み

これは私の証ですが、ある時、風師山の山頂に行ったことがあります。この日は忘れもしません。色々な事で心が患って、その心のモヤモヤを吹っ飛ばす為に車で走り出したのです。なんとなくたどり着いたのが、風師山でした。車で山頂付近にたどり着き、何か急に思い立って山頂に向かいました。

北九州に赴任し、初めての登山です(笑)途中の山道がどれほど続くかわからず(実際そんなに長い道のりではない)何度か引き返

そうとしました。そして山頂に着いたときに実際叫びませんでした。心の中で「うわああああー！」と叫びました。何故かと言うとそこに絶景が広がっていたからです。山頂から北九州の湾岸部そして下関と北九州をつなぐ関門海峡が一望出来ました。その時色々患っていたことが全部吹き飛びました(風だけに)。

それは大自然の前に、自分の悩みが“ちっぽけ”に思えたからです。私がこの時学んだ事は人の中心にあるものは恐れではなく恵みだということです。ですから、恐れは人間を支配しません。本当に人の心を覆い埋め尽くすのは神の恵みです。私は自然という神の恵みの前に、生かされている喜びを再確認しました。

③心配しない秘訣

人生の重荷、心の思い煩いは絶えずやってきます。ある一定の時に無くなるものではありません。聖書はその人の心の迷い、弱さを否定していないのです。無くならないものを自分で無くそうとすることに問題があります。そこで今日の箇所は“今日と言う日を心配しない秘訣”が書かれています。結論的に今日はこの一言に集約されます。悩みは自分で乗り越えるのではなく、神の義に委ねるのです。

ホセア書14:5「わたしはイスラエルには露のようになる。彼はゆりのように花咲き、ポプラのように根を張る」とあります。つまり、神は立ち返る者を受け入れ愛し、その人の内に永遠に命の水を押し流すと言う事です。

神の義とは私達に御子を惜しまず与え、命をかけて愛して下さった十字架の愛です。その愛に立ち返る時、つまり主に委ねる時、神の永遠の恵みに包まれ、神の恵みの前に全てが感謝に変わります。明日の事を思い患う必要はありません。そして今日と言う日さえ煩う必要がないのです。大切な事は日々私達の命を守る方に身を委ねる事です。繰り返して言いますが、その時私達は置かれたところで根を張り、美しい世界で一つだけの花が咲き誇ります。シャロンの花のように。